

# 甲斐市立敷島南小学校 自己評価書（前期）

平成22年7月22日（木）作成

校長 伊藤 稔

記述者 教諭 丸茂 和也

学校教育目標

《総括目標》 **豊かな人間性と、生きる力を身に付ける子どもの育成**

具体目標 ・明るく元気な子 ・思いやりのある子 ・進んで行動する子  
・よく考える子

本年度の経営方針

- (1) 教師として、信頼と愛情に基づく人間教育を推進すると共に、活力ある学校の創造と教育目標の具現化に努める。
- (2) 子どもの人権を尊重すると共に児童理解を深め、一人ひとりの能力や個性を伸長する指導に努める。
- (3) 開かれた特色ある学校・学級経営に努める。
- (4) 教師・児童の健康管理と自他の生命尊重を優先し、連帯感に支えられた教育実践に努める。
- (5) 家庭・地域と密接な連携を図り、地域に根ざした教育の発展に努める。
- (6) 教師として、研究と修養の重要性を忘れず専門性を高めることに努める。
- (7) 適切かつ有効な学校評価（内部評価・アンケート・外部評価・評議員等）を工夫して、学校の説明責任と結果責任を明確にする。
- (8) 保護者・行政・地域社会と協力し、子どもの安全確保に万全を期す。

## 1 全体評価

- 自己評価・児童用アンケートの結果の占める肯定的回答の割合から敷島南小の総合評価はおおむね良好な水準にあると考えられる。
- 自己評価では全体的に肯定的回答が多い。特に学校・学年教育目標など教育目標を見据えた教育実践、基礎基本の定着を図るわかりやすい授業作り、開かれた学校づくりへの取り組みなどでは高い肯定的評価となった。しかし福利厚生や健康管理等への配慮、相互・信頼関係を生かした教育活動、生き方教育の充実などは2学期以降より強化・改善を試みていきたい事項である。
- 学校が楽しいかという設問には多数が肯定的回答をしている。しかしわずかではあるがそうでない児童がいることも見逃すことができない。一人一人の実態や人格に寄り添いながら児童のおのおのが授業を理解したり学校生活の中で自己肯定感をもつことのできる機会の構築が望まれる。
- 対人関係では、「困ったときに相談できる友だちがいますか」という設問では肯定的回答が多いが、これは「人が困っているときには進んで助けていますか」という設問と回答の傾向が類似しており、相関関係があると考えられる。
- 学習面でも児童の肯定的回答が多い。ほとんどは先生がわかりやすく授業を教えてくれると認識していると言える。「授業中に意見や質問を言っていますか」という設問では肯定的回答が7割強となった。

○あいさつを進んで行う指導や取り組みに関しては、日々の指導や児童会活動での呼びかけ等これまでの活動が実を結びつつあり、児童自身の学校内外であいさつをしているという意識が高まっていると思われる。

○「家の人と学校の様子を話していますか」という設問では肯定的回答が約8割であった。更に家庭内でのコミュニケーションの機会を増やすために学校としての手だても考えていく。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・全体的に、肯定的な評価は多い。各教職員が、学校教育目標や経営方針を理解し、これに基づいた教育活動を推進している、ととらえていると判断できる。そしてその実践を評価し改善に生かすことの重要性を認識していると考えられる。
- ・課題としては、福利厚生や職員の健康に十分配慮していくことが取り急ぎ取り組みたいこととして挙げられる。

改善策

- ・福利厚生や健康管理への配慮として、学校だけではどうにもならない部分もあるが、学校としては、年休等を取った時は誰かが代わりに入ってくれるという安心感を、より築けるようにしていくように心がけたい。また一人一人が自らの分掌が学校運営を円滑にさせる上で十分役立っているという自己有用感をもてるよう、他のことにも思いを馳せながら、認め合いながら教育活動に当たることができる関係や雰囲気構築をしていくように取り組んでいく。

また前年度の資料等をPCに保存する、申し送りを確実に、行事の精選などを検討、実行していくなど能率的な仕事のあり方も考えていく。

### II 学校運営について

達成状況

- ・全体的に、「A:そう思う」「B:ややそう思う」の肯定的な回答が多いが、課題を認識し改善をしていきたいと思われる設問も見られている。
- ・施設設備の安全、防犯防災、情報セキュリティに対する意識は、昨年度に引き続き高いと判断できる。
- ・課題としては、相互理解や信頼関係を深めた教育活動の一層の充実や昨年度に引き続き、危機管理への意識を高めること、また校務分掌をはじめとした学校運営への参画意識をより向上させることが挙げられる。

改善策

- ・2学期に向けて様々な教職員と、より関わりのもてる体制づくりが望まれる。すべての教職員に目を向けて自己の教育活動はもとより、他の教職員の教育活動も肯定的に評価できるような体制や組織づくりに努力していくことが大切と考えられる。現在6年生は学年間で交換授業を行っており、こういった体制は教職員相互の関係を開かれたものにすると同時に児童理解の充実にもつながると考えられる。

また教育活動上生じる様々な問題を一人で抱え込まずに話す、共有できる雰囲気作りを今後進めていくことも大切と思われる。

- ・昨年度に引き続きいつやってくるか分からない不測の事態に備え、「子どものいのち・安全を守る」ことの重要性を認識しながら「危機管理マニュアル」を理解する機会を増やし、その意識を増幅できるようにする。また様々な防犯防災に関する情報やその対策を収集することに努め、職員が共有できるようにすることが必要と考えられる。

<b>Ⅲ 学習指導について</b> （児童生徒用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>【教職員へのアンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全8項目の質問事項のうち⑤「評価規準と評価方法を明確にする授業を行っている」以外は「A:そう思う」「B:ややそう思う」の肯定的回答が100%となっている。とくに③「基礎基本の定着を図る授業実践，④個に配慮した授業展開」の設問については，A「そう思う」の割合が高くなっている。</li> </ul> <p>【児童へのアンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問⑤「授業が楽しいか」⑥「先生は分かりやすく勉強を教えてくれるか」⑦「国語の授業はわかりますか」については，肯定的な回答がいずれも9割になり，特に⑥に関しては97%が肯定的な回答となっている。</li> <li>・質問⑩「授業中に発言や質問または意見を言うか」への肯定的な回答は72%であり昨年度の同時期とほぼ同じであった。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態に応じながら，一人一人の成長や伸びを見とりながら「わかる・できる・自分もなかなかやるもんだ」という実感を伴った自己評価を高めることができる授業の展開を図っていく。</li> <li>・多忙な毎日であるが評価規準の確認や1時間1時間の指導重点の明確化を図り，客観的な評価と指導目標の達成に向けて努力をしていく。</li> <li>・評価方法については教職員相互に研鑽に努め，子どもの伸びやつまずきが把握できるよりよいものを工夫していく。</li> <li>・わからないことは先生に聞けなくても友だちに聞くという子どもがあってもよいという観点に立った上で，互いを認めあえる集団づくりにより努めていく。</li> <li>・校内研究でテーマとして取り上げている「国語力」の向上を図ることで，この項目の推進をなお図っていく。また今後とも自分の考えや思いを相手に伝えるための表現力を向上させる取り組みを，教育活動すべての中で意識して実践していく努力を継続していく。</li> </ul>
<b>Ⅳ 生徒指導について</b> （児童生徒用及び保護者アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>【教職員へのアンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの設問のうち5つが肯定的な回答が全てとなっている。生徒指導についての教職員の意識は高く，適切な指導に努めていると判断できる。</li> <li>・生き方教育の推進という点で，今後具体的な取り組みが必要と考えられる。</li> </ul> <p>【児童へのアンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は楽しいか」では肯定的回答が94.21%を占める。昨年同時期より2ポイントほど向上している。</li> <li>・対人関係では，②「クラス（学年）に仲良く遊ぶ友だちがいますか」では「A:そう思う」「B:ややそう思う」の肯定的回答が95.5%，③「困った時に相談できる友達がいますか」という設問では89.9%，⑨「もし困ったことがあったら，相談できる先生がいますか」では78.7%となった。いずれの設問も肯定的回答が昨年度同時期よりやや向上している。また本年度新設の④「人がこまっているときは進んで助けていますか」では肯定的回答は89.5%であった。</li> </ul>
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き方教育（キャリア教育，進路指導）の充実については，学校内での当番や係活動，委員会活動，学校内での勤労・奉仕活動を通して上記の内容の充実を図ったり，ちょっとし</li> </ul>

策	<p>た声かけや励まし、投げかけなども大切にしながら、人の役に立つ喜びや充実感を高めていくことを大切に、実行していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「学校が楽しいですか」という設問には全体的に肯定的評価が多い中わずかではあるが否定的回答をしている児童がいることは見逃すことはできない。個々の原因や要因を把握するなど児童理解に努めるとともに、児童一人一人に目を向けたきめ細かな指導を一層充実し、児童が自己肯定感をもち進んで自己実現をめざすことができる教育活動の実現を目標に教職員一同が心一つにして取り組んでいく。</li> </ul>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体としては肯定的評価が多く、地域との連携を生かした教育活動はおおむね良好であると判断できる。</li> <li>設問①「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かしているか」②「保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け情報収集を行っている」は他の設問に比べA、Bの割合がやや低くなっている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の教科や領域等で、地域の人材の情報を収集し、外部人材として授業へ活用するような教育活動を今後とも継続し、より進めていく。</li> <li>学校・学年・学級便りは家庭が学校の様子を知り、家庭内での共通の話題を提示することもできると考えられる。このような学校の教育活動を積極的に発信していくことを推進して地域の人々や保護者に学校教育への関心を高めてもらう努力を継続していく。</li> </ul>
<b>VI 学校の特色に関して</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>A評価が多く、全てが肯定的評価となった。特にAのより強い肯定的評価が目立っている。</li> <li>①「児童生徒がすすんであいさつをするよう、指導に努めている」では教職員の意識が特に高く、そのことは児童アンケートの結果にも反映されている。</li> <li>児童へのアンケートに、本校のオリジナル質問として「音楽集会の取り組みをがんばりましたか」の質問を設定した。本校の特色の一つである音楽活動への取り組み意識は肯定的な回答が高くなっている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつへの取り組みはここ数年の継続的な取り組みが徐々に実を結んできて学校内外であいさつができるようになったと感じられる場面が多くなっている。登校中の地域でのあいさつに若干の課題を残すが、コミュニケーションづくりの基本となるあいさつの充実を今後とも学校の教育活動全体の中で折に触れ取り組んでいく。</li> <li>音楽活動・読書活動・たてわり活動は、本校の教育活動の大きな特色となっている。これらの自校の特色をしっかりと確認し学校教育目標の実現に資するよう日頃の指導や活動を続けていく。</li> </ul>
<b>3 まとめ</b>	
<p>&lt;推進継続していきたい事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、学年目標など教育目標を見据えた指導</li> <li>・基礎・基本の定着を図る、また個に配慮した授業づくり</li> <li>・あいさつの指導</li> <li>・開かれた学校づくりに向けて</li> <li>・行事への児童の主体的参画指導</li> </ul>	

＜改善を加えていきたい事項＞

- ・ 福利厚生や健康管理への配慮
- ・ 相互理解他信頼関係を生かした教育活動
- ・ 校内研究への主体的なかかわり
- ・ 評価規準と評価方法を明確にした指導
- ・ 生き方教育の充実